

垣根のない世の中へ

～小さな村の小さな私が伝えたい“ハシ”の日活動～

中武 倫子 氏

(有限会社一ツ瀬建設・女性技術者)



皆さまこんにちは。有限会社一ツ瀬建設の中武倫子と申します。

本日は、宮崎「橋の日」30周年おめでとうございます。また、この記念イベントに参加させていただきありがとうございます。さきほどの先生方とのご講演とは、うって変わって、小さな村の小さな私が皆さま方の力をお借りして取り組んだ橋の日活動を通して、地域のあり方について感じたことを少しお話させていただきたいと思います。

自己紹介です。私は、宮崎県の山奥にある小さな西米良村という村に生まれました。そして、実家は建設業を営んでおり、私は長女でした。子どもがやりたいことは何でもさせてやりたいという両親の言葉に甘え、高校から約10年間、宮崎を離れ子ども福祉を勉強しました。

ある時、母から一度西米良に帰って実家の手伝いしてくれないかと声がかかりました。いつか親孝行をしないと聞けないと思っていた私は、「今だ。でも半年だけね」という気持ちで実家に帰ってきました。

初めは事務員でした。でも、机にじっと座ってられない私の性格上、気付いたら現場にいました。現場には今までに見たこともない大きな重機があり、用途に応じた形や動作、音に驚き、胸が高鳴りました。毎回現場に行くたびに、まるで初恋の人に会うような胸の高鳴りを感じました。

私が現場に出て、最初の作業は測量でした。最初の半年は水平も取れなかったド素人でしたが、図面を理解し場面

に応じた機械を据え、トータルステーションを据える。しかも5分で。

初めのうちは機械設置に10分近くかかり「いつまでかかるとか」と叱られることもしばしばでした。眠れないことの連続で頭も身体も痛い毎日でしたが、時には厳しく、時には優しく測量を教え、私を現場に導いてくれた師匠の元で、自分が打っていく測点から構造物が出来ていく。そこから達成感とともに、感動と喜びが生まれていきました。

こうして、私は、土木の魅力に取り付かれ、土木の虜になっていきます。



ふるさと西米良村で始めた青年会活動

ここから少し、私の故郷西米良村についてお話しをしたいと思います。我が故郷西米良村は、県内でもっとも人口

の少ない市町村です。そんな西米良村には、感動する何気ない風景があり、昔から繋がってきた村人がいます。その証拠に、自己紹介をする時は、自分の名前より、両親や祖父父母の名前を言う方が皆さんによく伝わります。

また、語り継がれる民話があります。特に民話の中に登場するカリコボーズは、古くから伝わる村の守り神です。今では、ホイホイ君というイメージキャラクターで皆さんに親しまれています。民話の終わりは「と申すカッチン」という言葉で締めます。皆さんここで一緒にやっていただけませんか。皆さん両手をご準備ください。いきますよ「と申すカッチン」。とてもよく合っていました。ありがとうございます。

遠征のない世の中へ

西米良には 感動する何気ない風景 昔からつながってきた村人



民話もある

5

このように西米良に戻ってきた私は、ふるさと孝行をすべく青年会に入りました。現在、村の人口は、1,200人、20代を中心とする青年会は22名で構成されています。

青年会の活動は、イベントの物品販売など、毎年同じことを繰り返すばかりでした。私は、村が盛り上がり、そして青年会が楽しく勇気をもってくれるような企画はないかと考えるようになりました。そして、ついにその答えが天から舞い降りてきたんです。

それは、去年の事です。宮崎「橋の日」活動をされている方から、西米良でもやれるのではないかと投げかけられました。これだ。やろう。私にもできる。

そして私は今年青年会長になって、皆に話しかけてみました。場所は、かりこぼうず大橋です。

この橋は、平成14年度に完成しました。樹齢50年の県産スギを集成材にして地元の名峰である米良三山をイメージしたトラス橋です。架設当時は、橋長、最大支間長共に日本一だったそうです。村の建設課に聞いたところ、平成17年度までの3年間は、撓み量などの挙動データを収集していたとのことでした。

遠征のない世の中へ



村の青年会で 活動してみた

西米良村人口 1200人
青年会員 22人

6

先々週の「橋の日」は、前日に激しい夕立に見舞われ、村民の方からも本当に明日できるのかと不安の声が聞こえてきました。いよいよ迎えた当日は見事に晴れました。とても良い天候に恵まれ、無事、第一回の西米良「橋の日」活動かりこぼうずの”ぴかぴか”大作戦は開催されました。

遠征のない世の中へ

カリコボーズのピカピカ大作戦

一にしめら「橋の日」活動一



8

青年会と村民の思いをつなぐ活動

この時の概要についてですが、開始は朝6時半。青年会も眠い目をこすりながら出てきてくれました。参加者は、村内の子どもから大人まで総勢111名の参加。これは村全体人口の9.2%、約1割の参加です。

活動内容は、体をほぐすラジオ体操、参加者全員で橋の高欄磨きを行いました。この様子は、宮崎日日新聞にも取り上げられ、村一番のイベントであるやまびこ花火大会の直前に、橋をきれいにしたいという村民の気持ちを記事にさせていただきました。

ここからは、活動の状況を動画にてご覧ください。右上がドローンを用いて空中から撮影したものです。そして、左下が地上から撮影したもので、こちらは、参加者からの提供の動画です。

見てご覧いただけるように子どもも大人も一生懸命に橋磨きをしています。何組もの親子にも参加していただきました。

ここで皆さんこの動画の音に耳を傾けてみてください。聞こえましたか。子どもたち同士で「僕がやってあげる。僕もやってあげるよ」と協力して橋磨きをしています。皆が楽しそうに橋磨きをしていて、私はそれを見てとても嬉しく感じました。青年会も子どもも大人も生き生きとして、協力しながら「橋の日」活動を行っている。これがまさに私が目指してきた、笑顔あふれる地域づくりでした。

初めての西米良「橋の日」活動は、とても大変でした。青年会で了解を取り付け、協力者を集め必要な物品を手配し、参加者のボランティア保険を手配する等々。時間は経つ。答えは出ない。希望と不安と焦りの中、私を支えたのは、この橋の日活動を絶対に成功させたいという強い思いでした。

私は活動を通して、その思いの重要性について強く感じました。西米良の象徴であるかりこぼうず大橋で「橋の日」活動をしたという私の思い。そして、「橋の日」活動に費

同して絶対成功させようと奔走した青年会をはじめとするみなさんの思い。また、当日橋をきれいにしようという集まったみなさんの思い。これらの思いがひとつになってつながり、大きな橋が架かりました。ここに橋の日活動の成功があったのだと私は確信しました。



土木とは、整える仕事

西米良村には、かりこぼうず大橋をはじめ 134 本の橋が架かっています。橋のある所には、土木がある。まだ土木に関わって 3 年の私ですが、その私が感じる土木建設の仕事とは、協力して共感して共有して、整える仕事ではないかと思えます。

橋を造る土木とは、整えるとはどういうことなのか、3 つに分けて自分なりに考えてみました。

まず、生活面についてです。この写真は、昭和 10 年頃の西米良村の中心部です。そして、こちらの 2 枚目が現在の西米良村です。人家が密集し、中ほどには道路が整備されています。交通などの生活面の利便性が確保され整えられています。



昭和 10 年ごろの西米良村中心地



現在の西米良村中心地

次に、安全についてです。西米良村などの中山間地域では、法面が崩壊したりする災害が意外と身近にあります。左は、被災直後、2 枚目は復旧後です。この現場では、二度とこのような災害が起これないように整えられています。



最後に未来です。土木は構造物など多くの物を造り、そして維持し整えていきます。整えた先に見える物、それは何でしょう。それはきっと子ども達の明日、そしてそこに息づく人たちの未来なのではないでしょうか。



人と人、地域をつなぐ活動へ

今回の「橋の日」活動の途中に私は、支えてくれた方が沢山いたことに気づきました。そして、前を見ると一生懸命橋を磨いてくれる子ども達や青年会、大人の方たちがいらっしやいました。私は、西米良で生まれてから今日まで地域に助けられ、人に関わり、学びながら生きてきたんだなあと改めて思いました。そして、強い意志とふるさとへ

の思いを持つと、たくさんの方がその思いに手を差し伸べ、橋渡しをしてくれることにも気づかされました。これからも老若男女の垣根を越えてもっと地域の人、子たちの未来に役に立てる自分になれるよう努力していきたいと思えます。

会場にお越しの皆さま。今日、私はまた新しい思いを持つこととなります。それは、西米良と皆さまを繋ぐ橋架け活動です。西米良村は、平成の桃源郷と呼ばれています。毎日が猛スピードで流れていく都会とは違い、ゆっくりとした優しい時間が過ぎて行く西米良をきつと皆さまも心癒されることと思えます。そして、かりこぼらず大橋を筆頭に、村のいたるところで何十年前から大小さまざまな橋が、今も人と人を結んでいる姿を実際にご覧いただけることでしょう。

今後も、この西米良「橋の日」活動を通じて、会場にお越しの皆さまからのお力をいただいてこの会場の端から端まで橋を架けて、西米良という地域づくりに貢献していきたいと思えます。私は、西米良を信じ、これからも努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、皆さま今までスライドの右上小さく、でも、キラリと光る存在をお気づきでしたでしょうか。西米良村の守り神ホイホイ君です。ホイホイ君も皆さまにお会いできて嬉しいようです。そして、今日の発表をとっても緊張していましたが、このホイホイ君が最後まで私のことをしっかり見守ってくれていました。さすが、西米良村の守り神だなと思えます。来年もこのホイホイ君の笑顔が西米良「橋の日」活動をきつと盛り上げてくれることと思えます。

これで私の発表を終わりたいと思えます。その前に皆さま、私が先ほど民話の話をした時のことを覚えてらっしゃいますでしょうか。お話し最後の合図。では、皆さまお手を準備ください。西米良「橋の日」活動は、無事大成功だったちゅうことげな、と申すカッチン。ありがとうございます。ご清聴ありがとうございました。

